

無痛分娩に関する説明および同意書

麻酔の説明（無痛分娩）

当院では、無痛分娩の際に硬膜外麻酔を行います。硬膜外麻酔を用いた無痛分娩は、世界的には一般的な分娩方法です。無痛分娩といっても、痛みが全くないわけではなく、実際は最低限の痛みを抑えるものです（麻酔の効き方には個人差があります）。

麻酔をする前に

- ① 麻酔をする前には、胃の中を空っぽにしておくことが大切なため、無痛分娩を行う際は、原則絶食になります（少量ずつの飲水は可能です）。
- ② 背骨の変形を伴う疾患、現在も治療中または今までに診断された疾患がある場合、手術や麻酔の経験がある場合は、必ずお伝えください。また、極まれに麻酔に対して異常反応を示す家系がありますので、血縁者にそのような方がいる場合は必ずお伝えください。

麻酔の種類について

- ① 硬膜外麻酔：背骨の隙間から針をすすめ、細いチューブを留置します。このチューブから麻酔薬を注入し、分娩の痛みを軽減します。
- ② 脊椎くも膜下麻酔：腰にある骨の隙間から針をすすめ、くも膜下腔に麻酔薬を注入します。硬膜外麻酔よりも強力な麻酔ですが、一回のみの注入になるため、長時間の鎮痛には向きません。原則無痛分娩では行いませんが、母体や児の状況に応じて緊急帝王切開になる場合などには併用することがあります。

麻酔に伴う副作用、合併症

- ① 比較的多い副作用：頭痛、低血圧症、痒み、体温上昇、尿が出にくい、手術後の創部痛を強く感じるなどがあります。まれな副作用として、硬膜外血腫、原因不明の神経障害などがあります。
- ② 重篤な合併症：全脊椎くも膜下麻酔による呼吸停止、局所麻酔中毒などがあります。このような重篤な合併症が発生した場合は、母体救命処置を行います。

麻酔による分娩への影響

陣痛促進剤使用の増加、分娩時間の延長、吸引分娩・鉗子分娩率の増加などがあります。帝王切開率への影響はないといわれています。

きりんウィメンズクリニック武蔵野

説明医師 武知公博

私は、上記内容を理解いたしましたので、無痛分娩の処置に同意いたします。

同意年月日_____年____月____日

本人氏名_____

住所_____

家族氏名_____（続柄：_____）

住所_____